

公益社団法人化学工学会
粒子・流体プロセス部会 2024年度第1回臨時幹事会 議事録

日時： 2024年4月26日(金)17:00~17:55

場所： オンライン(Zoom)

出席者(敬称略)： 仁志(議長)、太田、加納、岩崎、菰田、押谷、島田、長津、日出間、春藤、
水田、中田、寺坂、竹中、古川、佐武、小林(書記)

欠席者(敬称略)： 立元、吉田、伊奈、増田、金井

議題

議事に先立ち、新任幹事、副部長、および事務局から挨拶があった。また、仁志部会長から事務局の佐武さんについて、部会長任期に関係なく、継続的に事務局を担当して頂ける方という説明があった。

1. 2024年度幹事の役割分担について

既に部会 HP に 2024 年度の幹事、ならびに役割分担が掲載されているが、一部修正した役割分担(案)について仁志部会長から説明があり、承認された。

2. 2024年度の部会本部の活動について

2024年3月年会時に開催された幹事会資料の抜粋をもとに、本年度の事業計画・収支予算書について確認するよう仁志部会長から依頼があった。

加納副会長からシーリングについて質問があり、仁志部会長から支出の1.5倍以上の遊休資産があると余剰分について本部に移管することになっているという説明があった。

3. 2024年度分科会配分について

2023年度末(2023年2月末日)の遊休資産について説明があり、直近3年間(2019年、2022年、2023年)の支出額をもとにシーリングの見込みを算出した結果、今年度は本部への移管はなしになる見込みであることが仁志部会長から説明があった。また、2024年度の分科会への配分額について、部会事務局の経費を見積もり、約13万円程度を5分科会の会員人数をもとに配分する予定であることが説明された。

菰田幹事から、シーリングによる本部移管にならないためには、2023年度の活動レベルを維持すれば良いのか質問があり、2023年度はコロナ明けで活動がコロナ前に戻り支出額が増えたこと、遊休資産を消費したことの両面で達成できており、今後も企画を

通じて大きな黒字を出すことを意識せず、会員への還元を考慮した活動を進めて頂くよう依頼があった。また、分科会ごとに予算規模が異なるため、各分科会で一度企画への支出と遊休資産の確認をして頂くよう依頼があった。また、事務局の小林より、既に基金化されて積み立てられている予算については5年程度以内に遊休資産に戻るため、使途について目的がないものは支出を増やす、もしくは遊休資産を減らすなど意識して頂くよう依頼があった。基金も含めた遊休資産と支出額については部会事務局としても確認して、対応が必要な際にはそれぞれの分科会幹事と相談させて頂くことになった。

長津幹事から、熱物質流体工学分科会の予算について、本部からの配分額、今年度どの程度支出した方が良いのかについて質問があり、部会事務局の方で確認し、後日回答することになった。

4. 部会関連のメール配信について

事務局の小林より、部会、ならびに分科会からのメール配信について、学会本体のMLリストを利用しているケース、分科会独自の名簿を用いたMLリストを利用しているケースと別れているが、その際に気をつける点について説明があった。学会本体のMLリストを利用すると法人会員は入っていないため、情報配信が出来ていないという問題が出ている現状について説明があった。仁志部会長からセミナーの案内が届いていないという問い合わせが3件程度来ており、これらは法人会員で個人正会員ではなかったことが紹介された。一方、分科会独自の名簿の場合には、学会の入退会の情報がタイムリーに反映されないというデメリットもある。法人会員の状況など分科会により事情が異なるため一律の対応は現時点では難しいが、部会MLは法人会員に配信されていないことをご留意の上、必要に応じて分科会のMLで転送して頂くなど、情報周知について協力の依頼があった。

また、部会幹事会の連絡時には、BCCではなくCCで配信されることについて既に幹事から承認済みであることが説明された。

5. 部会HPの更新依頼について

事務局の古川幹事より、HP更新(分科会行事、部会賞など)について説明された。WordPressを用いての更新のため、掲載したい文章、添付ファイルなどを送付すれば事務局の方で対応する。また、HP更新について事務局で対応が難しいケースは、HPを発注した会社に対応して頂ける契約になっていることが説明された。

6. その他

加納副部会長から、現在まで部会賞受賞者を学会の奨励賞、技術賞に推薦することは行っている(規約としては現時点では明記されていない)が、学会賞、研究賞の推薦についても考えてはどうかという提案があった。今年度は締め切りが5月15日のため

時間が短いため難しいが、推薦手順について仕組みづくりを検討することとなった。事務局の小林からフェローへの推薦についても考えてはどうかという提案があった。表彰担当の加納副部長を中心に検討することとなった。

事務局の小林より、秋季大会の部会シンポジウムについて、申し込み時に備考の欄に「学生会員の全発表を対象とし、優秀な発表に対して粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞の「プレゼンテーション賞」を贈呈します。37才未満の正会員の希望者を対象とし、優秀な発表に対して粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞の「奨励賞」を贈呈します。」という文章を記載するように各分科会でオーガナイザーへの引き継ぎをして頂くよう依頼があった。

仁志部会長から、分科会の代表、副代表が交代となった際に、引き継ぎについて依頼があった。特に、会員に関するルールが変更となっているため、部会 HP の議事録を確認して頂くよう依頼があった。特に特別会員について部会が関与しておらず分科会において会費の徴収などするようになってきていることについて注意喚起があった。事務局の小林より、会計幹事への連絡について PCA ソフトの注意なども含めて学会の経理担当の船津さんから連絡が届いていますが、交代された際には連絡先の変更依頼など船津さんの方にして頂くよう依頼があった。